

東北関東大震災第 1 回緊急会議 議事録

- ・ 日 時：2011 年 3 月 15 日(水) 16:00～18:00
- ・ 場 所：セミナーハウス 101
- ・ 出席者：別紙 2 参照

大橋理事長

今回の震災に関しては、既に NPO や社協が中心に動いているが、JANIC としてどのように動けばよいか NGO の意見を聞きたい。また、この場で NGO 間の情報交換、意見交換をし、活動に活かしていきたい。

日本 NPO センターの理事会では、阪神淡路大震災に比べても被害の規模が大きく、ガソリン不足などで現地に入れず、まだレスキューの期間という話。

末端の自治体が機能していないので、県から自治体へうまくなっていない。

比較的規模の小さい JANIC のメンバー NGO がどういう動きをしたらよいか考えたい。

ジョイセフ

現在、ジョイセフの支援者から支援の要請を受けている。妊産婦と女性に特化した支援を決めた。世界的なアライアンスの日本加盟団体である日本助産師協会と連携し、寄付を募り、妊産婦が安心して妊娠期を過ごせるようカウンセリング、物資の提供(ナプキン、新生児衣類、オムツ 精神的ケア)を予定している。15 日プレスリリースし、支援をスタートさせた。

かものはしプロジェクト

日本国内での緊急支援は初めて。後方支援を予定。

シビックフォースへスタッフを派遣し、バナー作成、英語版ウェブサイトの更新をしている。募金活動で資金提供を考えている。

A D R A Japan

土曜日に防災担当スタッフ 1 名を派遣。仙台市宮城野区、若葉区で社協と協働し、ボランティアセンターが立ち上がり次第、活動を開始する。現地スタッフから宮城野区の中学校で炊きだしを検討中との報告。宮城県南部へは社協が状況確認中で、孤立者等への支援も検討したい。

FIDR

昨日から HP で募金サイトで呼びかけを開始。現地へ入る予定は現在はないが、状況をみて入る。昨年 11 月に公益財団になり、日本の自然災害にも対応可能になった。

SVA

本日午後、緊急車両の許可証を取得したため、明日午前中から仙台市へ派遣予定。現地の状況調査、情報収集後、支援方針を決めたい。東北に曹洞宗の拠点があり、随時連絡を受け、支援を予定している。警察の緊急車両許可証がなければ入れない。J P F 経由で申請したが、却下され、内閣府にお願いして許可証がおりた。

JVC

東北に拠点がないため、情報収集中。みなさんから情報収集し、団体で検討したい。

AAR

土曜日から J P F への申請。日曜日に理事を含めて第 1 陣 3 名を送ったが、その時点では、通

行許可証はいらなかった。活動場所として南相馬市を想定していたが、原発を懸念し、仙台市に拠点を置いた。

月曜日物資を500名分(くだもの、菓子、飲料水)配布した。JPFのスキームと募金で1000世帯分(弁当、毛布、カイロ、下着、紙おむつ、ナプキン)を持参予定。弁当以外は確保済み。今日、明日中に第2陣3名が入る予定。昨日夕方、車両許可証を所轄警察署からいただいている。しばらくは、物資配布を行い、中長期的には障害者分野への支援にシフトを考えている。配布の対象は、仙台市災害対策本部と調整し、市立中野中学校を予定。海外駐在員の実家が仙台にあり、臨時事務所としていたが、昨日より青葉区に事務所を開設。国家単位の対策本部機能が弱いので、市単位でのコーディネーションが必要だという印象。

アーユス仏教国際協力ネットワーク

募金を始めた。本日一緒に支援できるNGOの話聞きにきた。情報を教団へ流す予定。損壊した地域のお寺の情報を収集中。後方支援を予定。仏教系グループでの募金の問い合わせあり。被害が広範囲なので、小さいところに分散して支援を考えている。

SCJ

3/12よりインターナショナルスタッフが集まり始め、千葉県旭市でアセスメントを行い、昨日、車両許可証があり、インターナショナルスタッフ2名、日本人スタッフ3名が現地入り。支援内容は、子どもへの心理的なケア。チャイルドフレンドリースペース設置を予定。場所は今日中に決める。新潟で給油して仙台に入った。インターナショナルスタッフはロジヤフレンドリースペースの専門家など全部で5名来日している。

オイスカ

緊急支援は得意ではないので、この場でみなさんの活動の様子を聞きたい。現在、宮城、福島、茨城中心に支援者約200人への情報収集。ようやく仙台、郡山、水戸との連絡がとれた。現地からの情報によると、燃料、水が不足している。中心部は電気、通信は復旧しつつある。現地の事務局と情報取り合っている。具体的な内容は決まっていない。

ハビタット

国内での緊急災害対応の実績はあまりない。アジアの太平洋本部からスタッフが来日。ロジスティックについて学びつつ、支援を実施したい。義捐金昨日受付開始。本日は情報収集とどちらかの団体との連携の可能性も考えている。

シャプラニール

現在情報収集中。事務局長は今日夕方帰国予定。13日から募金開始。支援者の状況をつかむため、リストアップ中。事務局長と相談後、詳細を決めるが、単体で動く可能性は低い。地域NPO、ボラセン、社協、他NGOとの連携を考えている。

JLMM

カトリック教会を拠点にボランティア、物資支援を考えている。仙台カトリック支局が中心。カリタスジャパンが仙台で緊急対策本部を立ち上げるので、その中で活動をしたい。内容は決まっていない。復興で長期的な支援をしたい。他のNGOとの情報共有をしたい。

JHP

昨日から募金活動開始。後方支援を中心に体制を組むことを考えている。南三陸町に実家があるスタッフが連絡つかず。仙台市若林区で教師をしている元ボランティアから、支援が全く来ていないとの連絡あり。

A F J

アドボカシー団体なのでどういう関わりをもつか検討中。国際的には関心あり、MDGs に取り組んでいる様々な国際的な NGO からの連帯、共感にメッセージをもらっている。それに対するレスポンスも含めて、国際的に情報発信をしていきたい。

J V C

団体そのもののインプリメンテーションは考えていない。現地の NPO のネットワーク組織が見えてきたら内容を決定したい。I V Y、多文化共生センターなど現地のカウンターパートが見えてきたら後方支援したい。10年以上の長期の復興活動になる。海外での災害の後の復興の方法を踏まえて支援方法を考えたい。

C F F

フィリピンへ事務局長が出張中。現在、メールにて会員の安否確認中。学生のボランティアからの支援の声が大きいため後方支援をしたい。

プランジャパン

初めて国内支援をする。寄付はウェブサイトで今夜からオープン。使い方については検討中。アライアンスのメンバーで災害専門家が日本に向かっているため、明日以降今後の活動を検討する。他の NGO との連携の可能性も探りたい。

J O C S

親団体の会員が被災しているため、病院の状況も含めて情報収集中。仙台に支援グループ、教会、YMCA からの情報を収集、付き合せし、検討していく。親団体が関係している山形、岩手、宮城の病院が単体で医療支援開始している。過剰に拙速に支援せず、現地の状況を見極めて募金をよびかける。関係のある保健医療従事者、ボランティアが現地のサポートに入り、避難所の保健衛生面での支援を模索したい。

難民支援協会

具体的な方針が決まっていない。現在、登録難民の安否確認、ニーズの把握をし、義援金を本日中に開始する。今後は、仙台市を拠点に外国人支援を現地でしたい。他団体との連携も視野に入れている。

シェア

主に復興時に保健医療分野で活動している。阪神や中越地震でも関わったが、規模が大きくてどう手をつけたらいいかわからない。緊急医療での支援を必要としているため、そちらで入ることを検討し、調整をしている。復興の支援については調査していきたい。

WCRP 日本委員会

募金を5月末まで募っている。情報収集したい。

大橋理事長

日本NPOセンターから聞いてきた内容を共有したい。情報を共有し、現地に迷惑をかけないように、後方支援をやる範囲でやりたい。

日本NPOセンターは、中央募金会、全社協と災害ボランティア活動支援プロジェクト会議(CNP)を組んで中央募金会が事務局となり動こうとしている。経団連会長も会員企業に支援を呼びかけている。

「広がれボランティアの輪」連絡会の会合も昨日あり、定期的な会合や事務局機能についてこれから話合う予定。

山口事務局長

昨日の会合に出席したが、CNPは、全社協中心に作られていて、新たな募金窓口を作る予定。NPO、NGO、経団連、生協、ボラ協、日赤など42団体が昨日会合に集まり、互いに経験を持ち合っで現地で連携することになった。まず、ボランティア、募金などのタスクフォースをつくり、現地で拠点を作ることになるだろう。

辻元清美議員が災害ボランティア連携担当内閣総理大臣補佐官となった。明日1時から、NPO、NGOを集めて戦略会議を開くので、NGOからも3~4名参加してほしいとの要請を受けた。

大橋理事長

辻元議員は、ボランティア連携室をたてる。昨日、PWJやWVJ等が呼ばれ、車両許可証やガソリン購入の件が議論された。

そのほか、東北大学生協(JON)が動いている。

日本NPOセンターは、市民社会創造ファンドと協働して応援基金を作る。

山口事務局長

JANICでも12日に緊急支援NGOサポート募金を立ち上げ、現在、20団体が参加。昨日の段階で500万ほど募金が集まっている。対外的な対応マニュアルを資料に加えた(添付資料参照。内部資料)。

【意見交換】

- 原発の影響が報道されている。スタッフの安全についてどのように判断して行動しているか。

JEN(欠席)は現地に入っていて、ガソリンが不足していること、スタッフ増員について躊躇していると聞いている。

AARは、センシティブに情報収集しているが、現場はもっと情報が入らないので現場の方が心配している。第2陣の派遣について判断を迷っている。東北自動車道は30km圏内に入っていないが、まだ判断しきれない。また、現場も南北どちらへ撤退するか退避する場所についても検討中。東北自動車道は許可証がなければ通れない

- プラン JPFのメンバーは既に現地に入っていて、日本レスキュー協会が情報を毎日出してくれている。被災者救出活動をしている最前線の方は緊急警報(余震、津波)で戻り、現地との行き来が激しく、2次災害を起こさないために必要ではあるが、思ったような活動ができない。

- AAR スタッフの食料の現地での確保が難しいので、十分な食料を用意して現地に入ってもらいたい。

谷山副理事長

日本NPOセンター、全国災害支援ボランティア会の会議では、現地レベルのNPOネットワーク、全国レベルのネットワークがどういうニーズの受け皿をつくるか、現地で調整ができていなければ動けない。

大橋 日本NPOセンターは、現地のNPOが動き出すまで動かない。まだ、安否確認の段階。都道府県にNPO支援センターがあるので、そこが中心に活動するので、そこを後方支援する。

国際協力系NGOとの調整依頼、配慮してほしい点などはあったか。

大橋 なるべく調整の場があったほうがよい。これまでは、自治体と県からの依頼があったが、現在、全く機能していない。なるべくNPOセンターと協調関係を持った方がよい。

片山副理事長

昨日の辻元議員の呼びかけにより、JPF加盟NGO8団体、ピースポート、多文化共生センターなどが集まった。各団体から活動報告をした。WVJは現在、仙台の北で物資配給を始める。

緊急対応部隊が現地でアセスメントしている。

NGOからは、通行許可証を取れるようにしてほしいと要望を出した。県、市から要請書をもらえれば1台ごとに1ヶ月有効の許可証がもらえるが、それをスムーズにするために警察の一元化と透明化の要望を出した。検討する

ガソリンについては、現在政府にも方針がない。政府としての対応策をだしてほしいと要望した。ペンディング

どこになが足りないのか、どこと協力したらよいかなど、情報がわからないので、情報を一元化してほしいと要望。情報共有サイトを作る。色々な情報を見られるようにしてほしいと要望を出した。

情報ハブについては、全社協が立ちあがろうとしている。政府、自治体、社協が連携し、現場で社協のコーディネートのもと、NGOが協力したいと伝えた。NGO側は、JPFが中心になり情報収集、発信をする。

国際NGOでは、海外から様々な問い合わせを受けているが、その全てのオファーをJPFでまわすのは無理。各団体で対応してほしい。

JFPでの情報交換会はないが、メンバーのメーリングリストを作って情報交換をする。JFPはもう少し団体数を広げたい。

物資提供については、辻元氏がまとめる予定。

幹事長室へ要望をFAXで送れば、政府でモニタリング後、各省庁へおろす。

辻元氏は、現場が立ち上がっていないので、ボランティアは待つて欲しいというスタンス。

山口事務局長

JICAとの連携について打診をしたが、JICA東北が被災し、規模も小さいため、現在は無理だが、今後連携もありうる。

寄付に関してシーズの松原氏からコメント。前回の災害で、ある団体が寄付を集めたが、定款上、寄付を送る事についての記載がなかったため、税務署からクレームが出た団体があった。

ジョイセフ 寄付行為について途上国しか入っていないため、寄付控除の証明を出さない形にする。財務省に確認済。

- 現地に情報ハブのシステム、一覧があるとよい。
社協がまとめて提供するだろう。
中越地震の経験では、県では把握できない。市町村レベルの対策本部ではなければ動かない。明日の戦略会議でも提案する。
- 辻元議員のところでは原発に関して、被災しないための配慮について情報のパイプについて話す予知はあるか？
辻元氏もまだわからない。
辻元議員の部屋に入る NPO,NGO 関係者 3 ~ 4 名とはどんな人選が気にしている。
辻元氏の補佐官は国交省からきているので、物理的な道路などの対応はできるだろう。
情報に関して国、県、社協が一体化するようお願いしたい。また、市町村からの情報をもらえなければ、NGO から出すことも可能ということを書いていくことが必要。NGO の情報を集めておく必要がある。
- 外務省民間援助連携室が海外からの支援受入窓口になり、忙しくなっている。辻元氏とのコーディネートも難しいらしいので、JANIC がその辺の役割を担ってはどうか。
JANIC も国際的な NGO ネットワークから問い合わせを多く受けている。
外務省は、日本で受入団体がある団体のみ各団体で受け入れもらい、それ以外のものは断るのが基本スタンス。
- 団体が現地へ入るには、団体の節度のみで届け出など特に規制はないのか？
許可を取って活動する必要はないが、実際は難しい。食べ物もない、道路状況も悪い中、自給自足で活動するためにまずアセスメントしなければならない。
- 救援物資についてどこかの窓口団体へ送れば物資を流すことができるのか
災害対策本部、ボランティアセンターなど行政の連携を必ず保ってもらいたい。市町村レベルでよいが、県へ連絡が必要と言われたら連絡してほしい。
県レベルでは県社協が立ち上がると思うが、自治体による。
まず、県に届出するのがよい。WVJ は県からのニーズを把握し、1日で支援先を決定した。
物資については、もう少し経つと県が保管する場所を決め、その後市が決める。必要な所へ運ばれるか否かはいつも問題になるので、ニーズにあった物資提供をしたい。
公設には届けるが、取りに來いというスタンス。援助が來ないところもある。情報を持つことが必要。
市町村レベルが一番把握している。

今後の JANIC の動きについて

- ・ 緊急用メーリングリストを立ち上げ、情報交換に使う。
- ・ 情報の整理のバックアップをする。
- ・ 辻元議員の戦略会議出席予定 16日1時～ SCJ、大橋、山口

次回緊急災害ミーティング

3月22日(火)15時～17時 早稲田奉仕園内 YOU - I ホール

別紙 1

【その他】欠席団体からの活動報告

世界の医療団

世界の医療団ではミッション開始の準備を進めている。支援内容と日程はまだ決まっていないが、精神カウンセリングを行う可能性が高い。

JEN の対応と課題

【概要】

- ・調査員 2 名を派遣、14 日 10 時 37 分、仙台市青葉区に到着。
- ・仙台市内の各区の災害対策本部、社会福祉協議会、避難所を回り調査を行った。宮城野区内の高砂中学校には 1200 人が避難生活を送っている。
- ・高砂中学校には 5 つの仮設トイレしかなく、火も水もないため、食料供給が困難となっている。
- ・毛布、水は災害対策本部にあるが、避難所には行き渡りきっていない。
- ・避難生活を送る人の中には、体調の悪化が見られる人もおり、医師でなくても良いので、看護師などの医療スタッフが必要。市販の薬も必要。

【対応】

- ・13 日夜、毛布を車に積み、調整員 3 名出発（ボランティアの方 1 名を含む）。
- ・14 日午前、仙台到着
- ・14 日夜、炊き出しのための調理用具、ポリタンクなどをトラックに積み、ボランティアの方に出発して頂いた。
- ・15 日朝、野菜、米、ポリタンク、女性用生理用品などをトラックに積み、同じくボランティアの方に出発して頂いた。
- ・現地では JEN スタッフが炊き出しのための調整を行っている。
- ・現地でボランティアでお手伝いして下さる方も集まり始めている。
- ・東京本部では、現在、ニーズの高いウエットタオルの調達を行っている。

【課題】

- ・移動のためにガソリンが必要だが、被災地のみならず関東近辺でもガソリンが不足している。
- ・ガソリン及びガソリンの携行缶も関東近辺で手に入りにくくなっているため、携行するのも困難になってきている。
- ・原発事故により放射能汚染の危険があるので、派遣に慎重にならざるを得ない。

以上

別紙 2 出席者リスト

	団体名	出席予定者(敬称略)
1	JLMM	漆原、松井
2	かものはし	村田
3	国際開発救援財団	依知川
4	難民支援協会	松岡
5	JVC	谷山、佐伯
6	シェア	西山
7	ワールドビジョン・ジャパン	片山
8	シャプラニール	内山
9	シャンティ国際ボランティア	中原
10	セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン	津田
11	難民を助ける会	五十嵐
12	基督教海外医療協力会(JOCS)	大江
13	アーユス仏教国際協力ネットワーク	茂田、枝木
14	CFE	古賀
15	プラン・ジャパン	山形
16	JHP	中込、古木、他2名
17	アフリカ日本協議会(AJF)	稲場
18	JANIC	大橋、山口、富田、矢野
19	ジョイセフ	浜野
20	ADRA	須原
21	オイスカ	池田、坂内
22	ハビタットヒューマンティ	高橋、樋口
23	WCRP日本委員会	木塚